

## \*\*\*\*\*除錆度のちがいによる無機質ジンクリッチペイントの防食性\*\*\*\*\*

## 1. まえがき

無機質ジンクリッチペイントは除錆度による防食性の差異が極めて大きく、不十分な除錆では早期の発錆を招く。

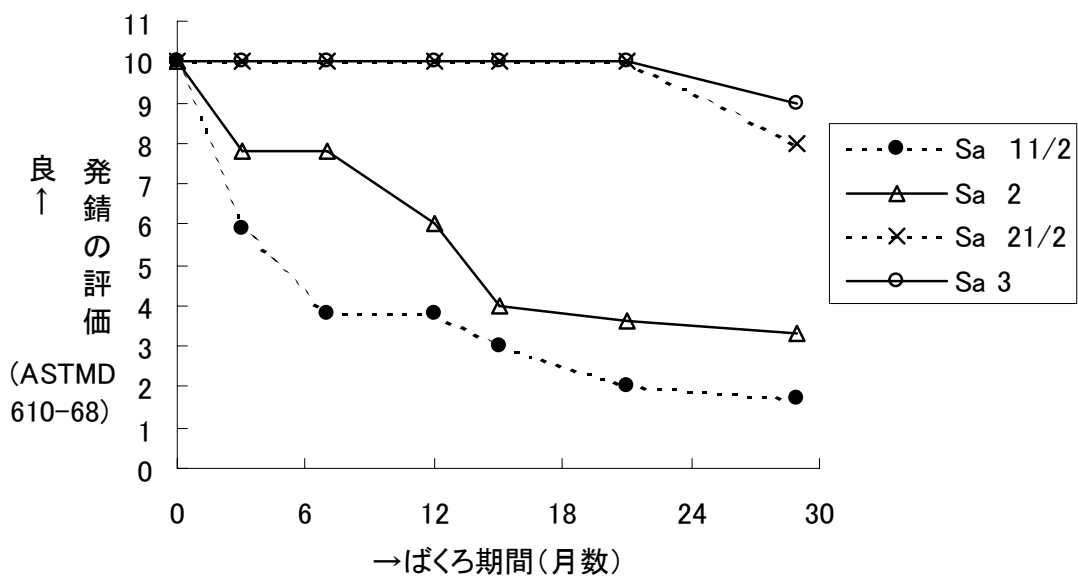
プラストにより、S I S S a 2 1/2 (S S P C - S P - 10 : near white) 以上の除錆が必要である。

## 2. 十分な除錆度の必要性

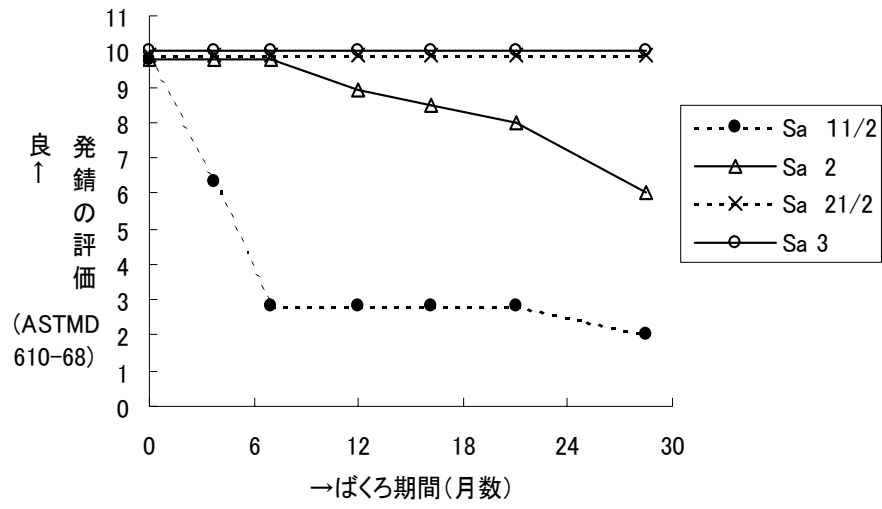
無機質ジンクリッチペイントの防錆機構は一義的には亜鉛と鉄の電位差から、亜鉛の犠牲陽極作用により、鉄を保護することにある。さらには、不溶性二次生成物による充填とアルカリ保護効果がある。

鉄と塗膜の間にさびが介在すると塗膜の付着が極端に妨げられるとともに亜鉛と鉄の電気防食作用を妨げる。したがって十分な除錆を行ない、できるだけ多くの亜鉛末が鉄素地面と接触していることが必要である。

## 3. 除錆度別の防食性データ (海浜地区ばくろ試験)

1) 薄膜形無機質ジンクリッチペイント (20 $\mu$ m塗装)

2) 厚膜形無機質ジンクリッチペイント (75 $\mu$ m塗装)



4. 考察

除錆度による防食性の差異は極めて大きい。

無機質ジンクリッチペイント本来の防食性能を得るためにはS I S Sa 2<sup>1</sup>/<sub>2</sub> (S S P C - S P - 10 : near white) 以上の除錆が必要である。